

令和2年12月定例

伊達市教育委員会 会議録

令和2年12月9日開催

令和2年12月定例伊達市教育委員会会議録

1. 開催日時 令和2年12月9日(水) 9時30分～
2. 開催場所 伊達市中央給食センター 2階会議室
3. 出席者 教育長 菅野 善昌
1番 高野 保夫 委員(教育長職務代理者)
2番 菅野 千恵子 委員
3番 三品 清重郎 委員
4番 関根 勝富 委員
4. 欠席委員
5. 説明のため出席した者
教育部長 田中 清美
教育総務課長
(兼学校給食センター所長) 土田 一紀
教育総務課主幹(教育施設担当) 佐藤 真
生涯学習課長 森林 敏昭
学校教育課長 熊澤 正人
こども部長 橘内 重康
こども支援課長 寺田 和也
こども育成課長 桃井 秀孝
学校給食センター
伊達学校給食センター給食係長 安田 和浩
6. 本委員会書記
教育総務課総務企画係長 富田 昭子
教育総務課総務企画係主事 大橋 勝

7. 日程1 開会

○菅野教育長 令和2年12月定例伊達市教育委員会会議を開会します。本日は全員出席していますので会議が成立しています。また、開会時刻は9時30分です。

8. 日程2 会期の決定

○菅野教育長

会期決定についてお諮りします。会期は、本日9日にしたいと思います。異議ありませんか。

【委員より異議なしの声あり】

○菅野教育長 異議なしと認め、会期は本日9日と決定します

9. 日程3 議事録署名委員の指名

○菅野教育長 議事録署名委員の指名に移ります。本日の議事録署名は、3番三品委員と4番関根委員にお願いします。また11月定例会の会議録は高野委員と三品委員に署名いただいていることを報告します。

10. 日程4 会議の進め方

○菅野教育長 本日の会議の進め方について、土田教育総務課長から説明願います。

○土田教育総務課長 会議次第により説明

1 議事

議案第41号 伊達市公立小・中学校教職員人事異動に係る内申の方針について

2 協議

学校給食費の増額改定について

3 報告

11. 日程5 傍聴の許可

○菅野教育長 傍聴希望の方はいますか。

○富田総務企画係長 いません。

12. 日程6 議事

○菅野教育長 「議案第41号 伊達市公立小・中学校教職員人事異動に係る内申の方針について」学校教育課長から説明をお願いします。

○熊澤学校教育課長 資料により説明

○菅野教育長 議案第41号について、委員の質疑をお願いします。

なければ質疑なしと認め、質疑を終結します。
これより採決に入ります。本案は原案のとおり決することに異議ありませんか。

【委員より異議なしの声あり】

異議なしと認め、「議案第41号 伊達市公立小・中学校教職員人事異動に係る内申の方針について」原案のとおり可決されました。

13. 日程7 協議

○菅野教育長 協議に移ります。学校給食費の増額改定について説明後、協議を行います。学校給食センター所長をお願いします。

○土田学校給食センター所長 資料により説明

○田中教育部長 昨年議案として給食費増額改定について示したが、委員から時期尚早ではないかと意見をいただき、議案を取り下げた。今回は現状把握も含め協議を行いたい。1月定例教育委員会会議に再度議案を提出したいと思う。

○菅野教育長 委員の質疑をお願いします。

○高野委員 11月定例教育委員会会議の専決補正予算の説明で、学校教育課長に経済的に困難な家庭の子どもの就学時に必要な経費を小中学校どのような基準で補助しているかを伺ったが、現在新型コロナウイルスの影響により、各家庭経済的に厳しい状況にある。伊達市の給食費は県内平均と比較すると低く、値上げの提案はあり得ると思うが、現状約10円の値上げは難しいと考える。昨年三品委員からは市からの補助を行い、充実させれば良いのではという意見があった。現在各家庭の経済状況をどのように考えているのか。

○田中教育部長 就学援助は通常前年の所得に応じて、要保護、準要保護の認定を行っている。専決補正予算の説明は、コロナ禍の影響により、前年の所得と比べて著しく低下した児童生徒の家庭に就学に必要な費用を援助するという内容だった。コロナ禍の影響による現状の所得を把握することは困難であるが、各家庭では経済的に厳しいと認識している。政府の資金援助、事業所の融資に対する補助制度などを活用しながら支援を行っている。給食費の補助は大きな

課題であるが、市の方針は公費投入を考えていない。給食費は食材費のみ各家庭に負担をしてもらっている。調理員、給食センターの維持管理は市の予算で行っている。要保護、準要保護の支援は続けながら主食、牛乳の価格高騰が副食費を圧迫しているため、給食費値上げも考えて行きたい。

○高野委員 各家庭の増額はしないという認識で良いのか。

○田中教育部長 増額を提案したい。一方で所得が著しく低下した家庭においては、次年度以降もコロナ禍に特化した形で援助をしていかなければならない。新型コロナ対策について国の補正予算や当初予算が決定後、市でも援助を充実させていきたい。

○高野委員 全国的に給食費を無料にする動きがあるが、自治体によっては経済的に厳しい場合もある。外食産業が活発化せず、米が大量に残っているという報道を見た。米価が安くなっている分を、副食へ回せばよいのではと思う。県内平均額との差額を市からの補助によって賄う方法もあると考える。

○三品委員 例としてジャガイモは一般的に販売されているものより品質の良いものが給食では使われており、食材費の見直しは可能なのではと思う。しかし納品組合や民間企業との兼ね合いもあり、難しい場合もある。この部分が解決すれば値上げをせずとも良いということが個人的考えである。県内の平均と合わせる場合、コストダウンをする努力が不要になってしまう。反対に伊達市が平均よりも安価で給食を提供できれば、他の市町村へ意見をいうこともできる。伊達市はどの立ち位置で運営するかが問われていると思う。

○菅野委員 物価も上がり、消費税 10%と上昇したため、給食費を値上げすることの理由にはなると思う。献立は1年を通して決まっており、カロリー計算もされ、献立変更も困難なのではと考える。要保護、準要保護の子ども達は社会保障で無料となっているため、値上げが貧困家庭に影響は与えないと思う。しかし、複雑な家庭事情により、経済状況が苦しくても要保護、準要保護からもれてしまう家庭もある。野菜の価格も下落傾向のため、ルートを変更することで安く仕入れることが可能であり、1年間の献立を多少変更し、安い食材を仕入れることで今までの価格で給食を提供することも可能なのではと感じる。

○関根委員 保護者の立場からは安い方が良い。1番は子ども達が満足する給食を提供することだと思う。値上げ後も子ども達が満足する給食であれば納得

はできる。農家の立場からすると、生産に関わる資材の高騰や天候不順の影響で食材が高騰していることも理解できる。値上げしたことで削られていた食材を増やすことが可能であれば納得できる。

○三品委員 給食センターで作っているのは主食と副食であり、他は食材費として仕入れていると思う。以前の揚げ物は材料を購入し手作りしていたが、現在は出来上がっているものを揚げているため加工食品を購入していることになる。加工食品は食材費なのかは曖昧なところである。そのため市から値上げ分を補助しても良いのではないか。また加工食品を減少させれば食材費が減り、調理費が増える。調理費は市で負担するため、値上げの必要もなくなるのではと思う。

○田中教育部長 給食提供には安定的に食材を揃えなければいけないため、スーパーの特売のように、日によって購入する業者を変更できない。食材を工夫し、平成26年から給食費の値上げをせず対応しているが、デザートを提供する頻度を減らす調整もしてきたため、子ども達の楽しみの部分が減少している。

本市の子育て支援として放課後児童クラブを旧町単位で最低1カ所設置しているが、隣接市では民間に運営を任せているなど、各自治体で様々な対応をしている。本市では震災以降、子ども達の体力低下を防ぐため遊び場があり、上保原や伊達では市外の利用者が増えている。自治体によって子育て支援は異なり、本市として給食費の補助は行わない方針である。

○橋内こども部長 本市放課後児童クラブでは全児童、生徒の約4割を1人3,000円の料金で預かっている。放課後児童クラブ設置後、料金増額は行っていない。このような背景もあり、給食費は市として補助することは困難である。

○菅野教育長 食材の納入システムの内容と主食高騰により、副食費が圧迫されていることについて詳しく説明をお願いします。

○土田学校給食センター所長 幼稚園は平成26年度から令和2年度にかけて主食である米、パン、麺が平均約6.45円高くなっている。牛乳は約4.32円高くなっている。そのため副食費が約10.77円圧迫されている。

納品は納品組合や福島県学校給食会から行っている。

○高野委員 米が余っている場合も今後、米の値段は高くなっていくのか。

○土田学校給食センター所長 令和2年度までは高くなるが、令和3年度の値段は下がると学校給食会からの通知があった。

○高野委員 米が大量に余っており、生産調整をせざるおえない状況になると予想され、知恵を出し合えば主食の値段を下げられるのではと思う。

今後も新型コロナウイルスの影響により、不況が続くと予想され、給食費の値上げは難しいのではないかと思う。個人的には市として補助するべきだと考える。

○三品委員 副食費が約10円上がっているとあったが、個人的には理解しづらい。一般の人が購入する値段との違いが示されなければ、分かりづらいと思う。例として米1俵を購入するためにどの程度値段が高くなったかを説明してほしい。

○菅野教育長 一般の人は値段を比較して購入する。学校給食は長期的に見て納品を行っているが、値段の比較はできるのか。

○菅野委員 納品は給食組合と学校給食会から行っていると説明があった。納品システムが変わらなければ民間との比較、安い食材を購入するなどの検討の余地がないのではないかと思う。納品システムを変更すべき。

○土田学校給食センター所長 納品については長期的に見て、大量の食材を安定的に確保する点から、福島県学校給食会や伊達、保原の納品組合を利用してきた経緯がある。給食のための生産者などを考えると変更しづらい。

○田中教育部長 小売との比較については資料を用意し、1月定例教育委員会会議において議案として提案する場合は示したい。

○三品委員 学校給食は安定的に納品してほしいという気持ちも理解できるが、この部分が情報公開されていないことが問題である。納品組合から購入する値段を提示されれば、給食費料金改定も理解できると思う。

○菅野教育長 具体的に給食費の内訳や価格変動なども含め、次回議案として提案する場合は、関連資料を提示してほしい。

他に意見や質問がなければ次に日程8の報告に移ります。

14. 日程 8 報告

令和 2 年度 12 月定例教育委員会会議 教育長報告資料

1 学校の適正規模・適正配置事業

(1) 大石小学校の掛田小学校への統合に向けて [学校教育課]

- 児童の円滑な適応を図るための交流 [11 月 17 日 (火)]

○熊澤学校教育課長 11 月 17 日 (火) に大石小学校、掛田小学校の交流が行われた。掛田小学校から大石小学校へ招待状とプレゼントが届き、子ども達も楽しみに交流会当日を迎えた。3 年生は鬼ごっこ、ドッジボールの後にゲーム交流を行い給食。4 年生はスポーツ集会後に校舎案内の後に給食。5 年生は自己紹介ゲームの後に球技を行い給食となった。幼稚園の時に一緒に過ごしていたということもあり、懐かしむように交流していた。今後は第 2 回、第 3 回と予定されている。第 2 回は 1 月に実際の授業を受ける予定となっており、第 3 回は 1 月以降に鼓笛練習を一緒に行う予定。

(2) 霊山地域の適正規模・適正配置に向けて [教育総務課]

- 令和 2 年 12 月 17 日 (木)・掛田小、大石小、小国小、石田小、霊山中の各校長・教頭及び P T A 代表者への合同説明会予定

○土田教育総務課長 11 月中に個別で「霊山の新しい教育」について説明した後、それぞれの保護者からアンケートの回答をもらい、集計を行ったため情報共有を行っている。今後、小国小学校、石田小学校の統合に向け、説明を行う予定である。

○菅野教育長

2 伊達地区特別支援学校新築工事について

(1) 安全祈願祭・起工式：令和 2 年 11 月 18 日 (水) 旧保原小学校敷地内

(2) 開校予定：令和 4 年 4 月

(3) 期待できる効果

- ① 伊達地区における特別支援教育の相談支援体制の充実
就学前から卒業後における相談・研修支援を行うなど、地域における特別支援教育のセンター的機能の発揮
- ② 伊達地区から通学する児童生徒の及び保護者の通学に係る負担の軽減

3 子どもたちの頼もしく豊かな育ちの実現に向けて

(1) 市町村対抗駅伝競争大会 [11/15 (日)] ⇒ 若い力の躍動

(2) 伊達市青少年育成推進大会

「少年の主張」の発表・・・各中学校から 2 名ずつ計 12 名の発表

(3) 伊達市と保原高校との連携・・・地域連携授業

内閣府地方創生推進室主催「地方創生★政策アイデアコンテスト 2020」

- 保原高校商業科3年生の政策アイデア
「だてな甲冑ニット政宗プロジェクト」
北海道・東北ブロックの地方審査
東北経済産業局長賞受賞、全国最終審査会にエントリーされている
- 全国最終審査：12月19日（土）にオンライン開催されるプレゼンテーションに臨む。
- (4) 保原高校とふたば未来学園高校との合同プロジェクト
伊達市産の桃を使ったマドレーヌ「m o f e t（モフェット）」の開発
[考案 ⇒ レシピ：ふたば未来学園高校生、パッケージ：保原高校生]

4 各種大会・コンクール等への参加（体位・体力の向上、たくましい心の育成、豊かな人間性・社会性の育成、地域との交流）

- (1) 租税教育推進校
仙台国税局長感謝状：保原小学校
- (2) 県統計グラフコンクール
パソコン統計グラフの部 努力賞：西坂 聖（月舘学園中学校）

5 11月教育長の部屋
「永年にわたる尽力に感謝そして生徒の豊かな感性と熱い主張に感銘」

- 6 その他
- (1) 学校だより、新聞報道等から
 - (2) その他

○菅野教育長 意見や質問等があればお願いします。

○高野委員 民友新聞の社説に関心を持った。福島県はデジタル化が進んでおらず、今後環境改善が進んでいくと思うが、パソコンやタブレットを用意しても有効に活用できなければ意味がない。教員が児童、生徒の特性に配慮した使い方ができるよう、より実践的な研修プログラムに工夫を凝らしたいと記載があった。用意するが使いこなせなければ意味がないという部分は重要だと感じた。また端末が配布されれば、理解度に応じた個別の学習をすることができ、双方向のきめ細かな指導も出来ると記載がある。個人的にはメリットもあるが、授業が進行出来ないなど、デメリットもあると思う。デジタル機器を使うだけでは意味がなく、手段として使いこなす、教育目標を達成するということが重要である。機器に慣れさせるだけでは本末転倒になってしまう。

○菅野教育長 パソコンやタブレットを使用する本質的意味を考える必要があると思う。私たちも意味を汲み取りながら指導していかなければならない。次

年度の学校教育について学校教育課で検討している。今後の取組みについて説明をお願いします。

○熊澤学校教育課長 メリット、デメリットを考え、学習の手段として使用し、目的を見失わないようにしたい。私を含め端末を使用した学習をしたことがないため、学校教育課の指導主事は勉強が必要。現在担当の指導主事が学校現場でICT教育の参考になるようなもの「(仮)授業のICTスタンダード」を作成している。子ども達のタブレットに入れる教育支援ソフトの使い方研修を全教員に受けてもらう。来年度の教職員研修の中でもICT研修を重点的に行っていく。国からの予算で子ども達のタブレットは用意できるが、教員の分は用意できないため市で予算を組み、子ども達と同様のものを用意する。有効に活用するため、私達も勉強していきたい。

○田中教育部長 メリット、デメリットは現在考えられるもの以外に実際使用して気付くものもあると思う。メリットとして体育の授業での活用例が挙げられている。2人1組になり動画を取り、出来る子と出来ない子の比較ができる。これまで自分が行っている姿勢を見ることが出来なかったが、タブレットを使用し見ることが出来る。学校生活の中でメリット、デメリットは日々出てくるため、毎月または各学期などに情報を集約し、各学校に伝達する必要があると感じる。教員もタブレットでの授業は経験がなく、導入当初は授業が遅れる可能性もあるが、月舘学園のように慣れることで効率的に授業を進めることが出来る。子ども達は直感的感覚でタブレットを操作するため、独自に使いこなせるようになると思われる。そのため教員が児童生徒に教えるだけでなく、教わることも出てくる。

○菅野教育長 他に意見や質問はありますか。
次に(2)12月定例議会報告に移ります。

○田中教育部長 資料により説明。

○橋内こども部長 資料により説明。

○菅野教育長 意見や質問はありますか。
次に(3)各教育委員の皆様からの報告に移ります
なければ(4)各課からの報告に移ります。

○各課報告なし

○高野委員 議会だよりには市立図書館に予算が付き、電子図書についても記載があった。詳しく説明してほしい。

○森林生涯学習課長 コロナ対策交付金を活用し、8月の専決処分により予算を設けた。一般増書として4,000冊、また既存の図書館システムに電子図書館システムを合築し、1,000冊を導入する。500冊はレンタルとなり、2年間で50回閲覧されると終了となる。1,000冊の内訳は800冊が子ども向け図書、200冊が一般向けとなる。また市内幼稚園、小・中学校に図書館登録カードの集約をお願いしている。今後は電子図書の選書を行い、早めの運用に努めたい。

○田中教育部長 年度当初の学校休業や図書館の閉館により、読書の機会が失われた。GIGAスクール構想により1人1台のタブレット配布を行うが、今後同様の事態が発生した場合、タブレット等での読書の機会を得られるように、予算が付いた。子ども達の読書習慣の助けにもなる。

定例議会報告の補足を行う。市内理美容組合から成人式の際に県外大学生などに対し公費でPCR検査を行ってほしいという陳情書が提出された。最初のPCR検査は陰性であったが、再度、再々度の検査で陽性となる事例もある。また直近に検査を受けなければ意味がない、県内において検査を受けられる機関が少ないなどの観点から市として難しいと回答していた。議会の委員会では趣旨採択となり、本会議では採択となった。成人式は旧町単位の5カ所に分散し行う。梁川地区は中央交流館で実施してきたが3密が避けられないため、梁川小学校体育館で実施する。今年度は成人式後の懇談会を実施しない。スカイパレスは懇談会を実施しない場合、会場を借りることが出来ないため、保原地区は保原体育館に変更した。成人式参加者には事前に接触アプリのインストールを呼びかけ、感染発生時に有効的に活用したい。来賓、保護者の参加も最小限にし、接触を減少させ実施する。

○菅野教育長 他に意見や質問はありますか。

次に(5)その他に移ります。

教育委員会行事報告・予定表について、教育総務課長お願いします。

○土田教育総務課長 資料により説明

○菅野教育長 他に報告はありますか。

○橋内子ども部長 教育長資料に古関裕而について記載されていたため報告す

る。作詞家である野村俊夫さんは保原の富成出身。富成小学校校歌は作詞・野村俊夫さん、作曲・古関裕而さんが担当している。月舘小学校校歌は作詞・草野心平さん、作曲・古関裕而さんが担当している。月舘小学校校歌を作る際に当時の教員が草野心平さんと知り合いで、お願いしたという経緯があった。そして草野心平さんや当時の教員の熱い思いが伝わり、作曲は古関裕而さんをお願いすることになった。

○菅野教育長 次回の日程について事務局から説明願います。

○土田教育総務課長 次回の定例教育委員会会議

日時 令和2年1月13日（水）13時30分～

会場 庁議室

○菅野教育長 本日の12月定例教育委員会会議は、11時13分で終了します。

15. 日程9 閉 会 11時13分

上記記録の正確なことを認め、ここに署名する。

令和2年12月9日

議事録署名人

3番委員

4番委員

議事録調製者 教育総務課総務企画係主事 大橋 勝